

高崎観光協会 会報

縁起のいいまち

高崎

冬号
Winter
VOL.145

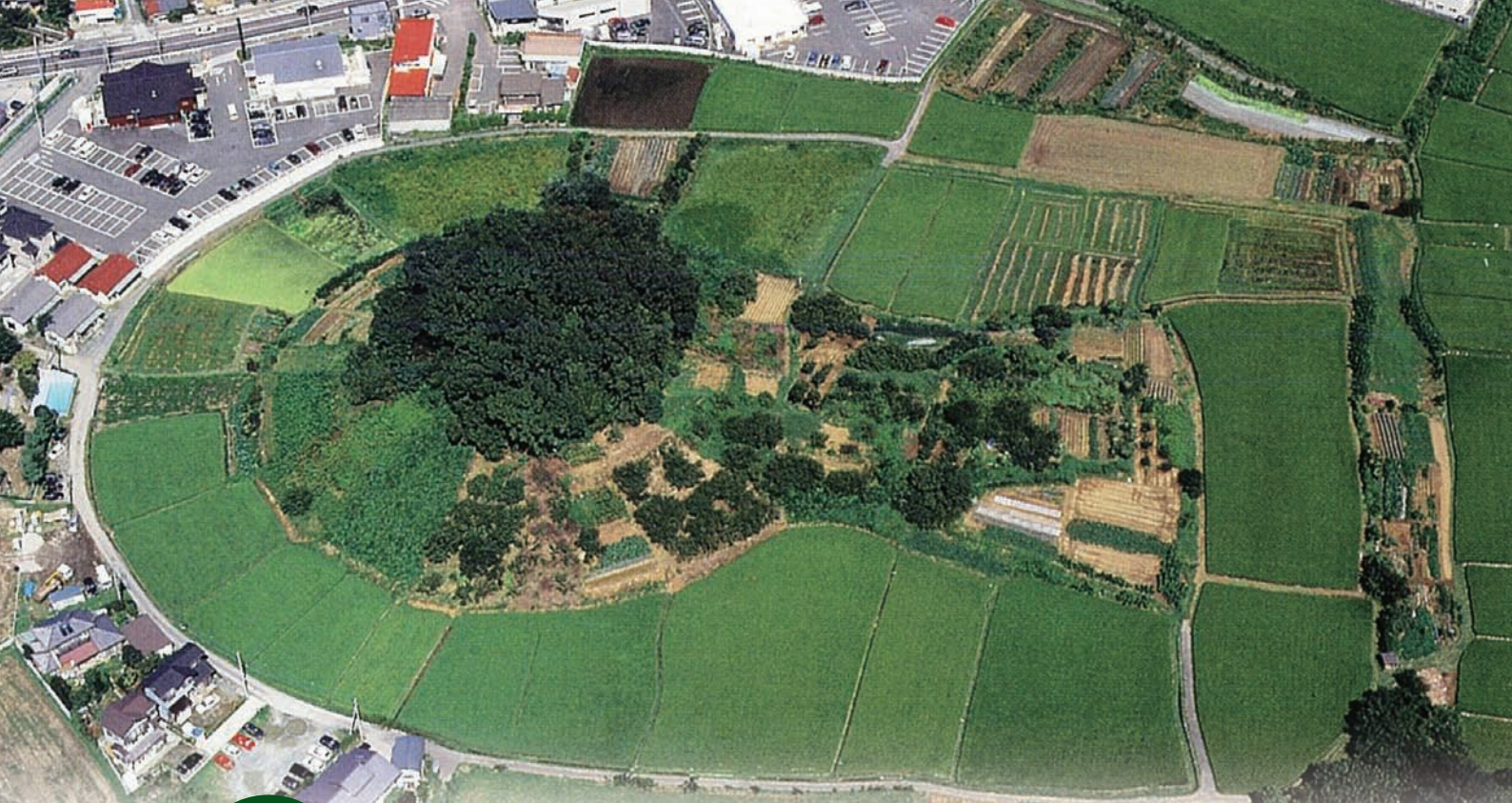
2019

高崎古墳 ロマン紀行



「縁起のいいまち高崎」高崎観光協会 会報 冬号 (第145号) 平成31年1月1日発行

かつて東日本最大規模を誇った浅間山古墳 (倉賀野町所在)



浅間山古墳

■倉賀野正六古墳群

浅間山古墳 (国史跡)：高崎市倉賀野町 312 ほか
大鶴巻古墳 (国史跡)・小鶴巻古墳：高崎市倉賀野町 661 ほか

※「大鶴巻古墳」は「浅間山古墳」の 2/3 の大きさ、「小鶴巻古墳」は 1/2 の大きさと、企画に共通性が認められる。



高崎古墳ロマン紀行

群馬県はかつて 13,000 基を超える古墳が造られ、現在でも 2,000 基余りの古墳がその姿をとどめている古墳王国。高崎地域にも数多くの古墳が存在し、その雄姿を今日も見る事ができるものも多い。ここでは、代表的な古墳を取り上げ、東国における最先端の中心地域であった古代高崎地域の姿に迫っていく。

日本列島を眺めると、南は九州から北は東北地方に至る各地域に古墳が造られている。特に巨大古墳が集中しているのがヤマト王権の拠点である畿内(近畿地方中心部)、その他に大陸文化の窓口で

今から一七〇〇年ほど前のこと。この高崎の大地に突如出現したのが、今は古墳と呼ばれる大きな墓。古墳が造られた3世紀後半頃から7世紀の四〇〇年余りを「古墳時代」という。古墳は、形や大きさ、埋葬方法、出土品などを手掛かりに時代を探ることができる情報の宝庫。その被葬者は「王」と呼ばれ、古墳という大土木工事を成しうる財力を持った統率者であると考えられている。

ヤマト王権から始まった古墳造り



元島名 將軍塚古墳



元島名將軍塚古墳から出土した底に孔の開いた「底部穿孔壺型土器」。古墳での祭祀に使用された。

■元島名將軍塚古墳（市史跡）

高崎市元島名町 163-1 ほか

■高崎市歴史民俗資料館

高崎市上滝町 1058 TEL.027-352-1261

休館日：月曜（月曜が祝日の場合は翌火曜）、年末年始

時間：通常 9:00～16:00 入館無料

高崎に最初に登場した 前方後方墳

高崎に最初に登場した古墳は「元島名將軍塚古墳」で、県内で最も古い古墳の一つ。井野川右岸の段丘上に造られた「前方後方墳」で、墳丘の長さは約90m、高さ8mを超え、今も当時の姿をのびせている。葺石・埴輪を持たないが、後方部頂上には底に孔の開

ある北九州、海運が発達した瀬戸内、北方世界との境界域にあたる関東となっている。

当時のヤマト王権は朝鮮半島や中国大陸との交流から、様々なものを取り入れた超先進国。高い技術やノウハウが求められる古墳造りは、こうしたヤマト王権の影響を受けたもので、その勢力が地方へと波及した証となっている。

東日本最大規模の前方後円墳

古墳時代の「中期」には、巨大な「前方後円墳」が盛んに造られるようになった。市内には100m規模の前方後円墳が多く見られ、生産力の豊かな地域であったことが推測される。古墳の大きさは、そこに葬られた人（支配者＝王）の力の大きさを示している。

高崎地域で最大の前方後円墳は

いた壺型土器「底部穿孔壺型土器」が並べられていた。この土器は東海地方に多く出土しており、その地域との深いつながりが考えられている。ラップ状に開く有段口縁のフォルムが特徴的な土器を、近くの高崎市歴史民俗資料館で見ることが出来る。

高崎市域では、烏川・井野川水系に沿って、いくつもの有力古墳群の存在をみる事が出来る。この時期から河川流域の低地部では水田開発が盛んに行われた様子が見えてくる。また、中期の古墳の多くは竪穴式石室や石棺の使用、墳丘の構築に葺石を敷くなど、大量の石材需要があり、これも河川とのつながりを示唆する材料になっている。

倉賀野町所在の「浅間山古墳」。4世紀末頃に築かれ、築造時は東日本最大規模だった。ほぼ同時期に造営された「大鶴巻古墳」と、やや下の時期の「小鶴巻古墳」とともに倉賀野正六古墳群を構成している。

「浅間山古墳」は墳丘の全長が171mで、周囲を二重に堀が巡っていた。盾形の平面形は、奈良市にある佐紀陵山古墳（墳丘長207m）とそっくりで、その5分の4の縮尺で設計されたと推測される。佐紀陵山古墳は、ヤマト王権の中心勢力が葬られたと考えられ、他に丹後地方や播磨（兵庫県）の古墳などにも同型の古墳が見られる。また、大阪府藤井寺市に所在する津堂城山古墳は、広大な二重堀によって王陵の聖域を画した最初の古墳で、浅間山古墳もその設計概念を継承している。こうしたことから、広域の同盟が築かれ、浅間山の主も組み合っていた可能性が高いと推測される。

王の埋葬法に変化

そして5世紀前半には、東日本最大規模となる「太田天神山古墳」（墳丘長210m）が出現。優勢だった上毛野地域の實力を示すため、諸豪族が担ぎ上げた大首長の墓だという説がある。

古墳時代の特徴の一つとして、王の埋葬の仕方が途中から変わったことが挙げられる。元島名將軍塚古墳では主体部は木棺粘土槨で、王の遺体を木の棺に入れ棺の周囲を粘土で固めた。権威の象徴のとして剣や玉類が遺体に沿って出土し、鏡が頭部付近に置かれていた。

前方後円墳の時代になると、石棺が使用される。組み合わせ式に始まり、刳り抜き式の長もち型や家型、舟型などがあり「竪穴式石室」に納められるようになった。

その後、「横穴式石室」の採用と



綿貫町に所在する不動山古墳の石棺



観音山古墳と横穴式石室 ▼



いう大きな変化が起こった。竪穴系の主体部を持つ前期から中期にかけての古墳では1〜2体が埋葬されたが、横穴式石室は入口を開けることで容易に追葬ができ、複数の遺体が埋葬されるようになった。

古墳の副葬品

古墳の副葬品は、前期・中期・後期と時期によって変化が見られ、前期の古墳からは、剣・玉・鏡に代表される「豪族の権威」を示すような出土品が認められる。

また、巨大な前方後円墳が盛んに築造された中期の古墳には、鉄製の武器や武具など「豪族の実力」

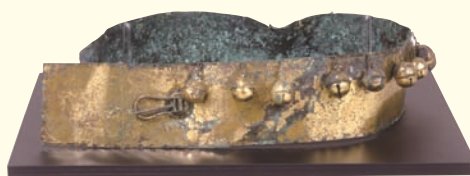
観音山古墳

県内最大規模の横穴式石室

「観音山古墳」は、未盗掘の横穴式石室から人骨1体と、銅鏡2面、銅製水瓶、金銅製馬具など豊富な副葬品が出土している。中でも獣帯鏡は百濟武寧王陵で出土したものと同タイプであり、銅製水瓶は北齊の様式に類似しているなど、中国・朝鮮との交流を示している。また、この古墳の最大の特徴は、県内最大規模の横穴式石室で、ブロック状に加工した角閃石安山岩を積み上げた構造は見事で、事前に申請すれば石室内部を見学できる。「三人童女」をはじめとする出土遺物は一括して国指定重要文化財となっており、その一部は群馬の森にある群馬県立歴史博物館に展示されている。

■観音山古墳 (国史跡)
高崎市綿貫町 1752 ほか

■群馬県立歴史博物館
高崎市綿貫町 992-1 TEL.027-346-5522
休館日：月曜 (月曜が祝日の場合は翌火曜)、年末年始
時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)
観覧料：大人 300円、大学生・高校生 150円



金銅鈴付大帯



三人童女

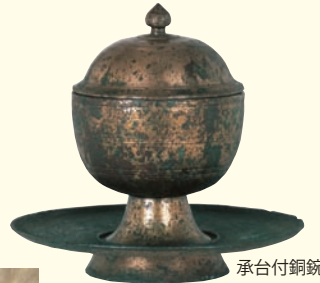


銅製水瓶

巨石を使用し「群馬の石舞台」といわれる

「観音塚古墳」は、墳丘の全長 105m、高さ 12m の前方後円墳で、6 世紀末に造られた県内最後の前方後円墳といわれている。特に注目されるのが、横穴式石室を構成している巨大な石。最大 55 トンに及ぶ天井石が使われ、奈良の明日香村にある石舞台古墳に対し「群馬の石舞台」といわれている。30 種 300 点余りの出土品は国指定重要文化財となっており、「高崎市観音塚考古資料館」で保存・公開されている。太刀や鉄鉾などの武器や武具類、馬具、耳飾りなどの装身具、仏教文化の影響を受けた銅鏡、須恵器などから、高度な技術や美意識の高さがうかがえる。

- 観音塚古墳（国史跡）
高崎市八幡町 1087
- 高崎市観音塚考古資料館
高崎市八幡町 800-144 TE.027-343-2256
休館日：月曜（月曜が祝日の場合は翌火曜）、年末年始
時間：9:00～16:00
観覧料：大人 100 円、大学生・高校生 80 円



承台付銅鏡



銀製唐草文透鞘金具



金銅製心葉形透彫杏葉

観音塚古墳



観音塚古墳の横穴式石室



馬の埴輪（井出町井出北畑遺跡出土）

剣崎町の長瀨西遺跡で発見された積石塚



馬の生産と渡来人の痕跡
馬は、4 世紀以降に朝鮮半島から日本列島にもたらされたといわれている。剣崎町の「長瀨西遺跡」で

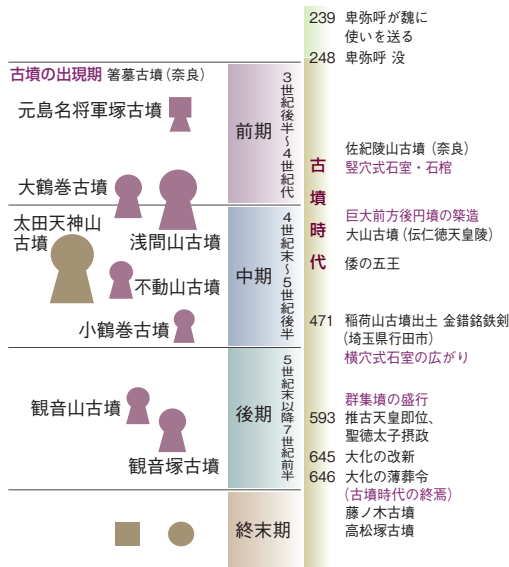
を示す副葬品が見られる。特に馬具は、騎馬の風習がこの頃に伝わったことを示している。そして、後期の古墳には、金・銀で飾られた武器や馬具など「大陸との交流」を物語る副葬品が見られる。綿貫町の「観音山古墳」と八幡町の「観音塚古墳」がその代表格で、当時の一級品ともいえる数多くの出土品を資料館や博物館で見ることができる。

は、高句麗地域にルーツを見る四角い墓「積石塚」が 8 基見つかったほか、韓式系土器や金の耳飾りなど 5 世紀の渡来文物がセットで出土し、渡来人が暮らしていたことが実証された。中でも注目すべきは、轡（くつわ）を付けたまま葬られた馬の遺体が初めて発見されたことで、馬生産が行われていたという確証を得ることができた。

『日本書紀』には、倭軍が何度も新羅を攻めたことや、戦いを指揮した將軍の一人に上毛野氏の祖先がい

び上がってくる。中でも馬の生産は、初めて「畜力」を加えたエネルギー革命を引き起こし、軍事行動、情報伝達、大量輸送、効率的な農地の耕作等に大変革をもたらした。ヤマト王権が集中した東国文化の交流拠点として繁栄した高崎地域の姿が浮か

たことが記録されている。ヤマト王権の一翼を担った高崎地域の豪族が、朝鮮半島で培った人脈により、渡来人集団を榛名山麓に招へいし、鉄器や金属加工、織物、焼き物などの手工業や土木技術、馬の生産などが行われ、当時の人々の生活を一変させたことがうかがえる。



古墳が最初に大和盆地に出現した 3 世紀後半から 4 世紀代を「前期」。巨大な古墳が造られるようになった 4 世紀末から 5 世紀後半を「中期」。横穴式石室が採用され、規模の小さな円墳も多く造られるようになった 5 世紀末以降 7 世紀前半までを「後期」。特に前方後円墳が造られなくなり方墳や円墳が中心となった 7 世紀代については「終末期」と呼ばれている。



ユネスコ「世界の記憶」 登録から一年 古代にいざなう 群馬の宝



●上野三碑巡りバス（無料）

上信電鉄吉井駅を起点に、多胡碑、山上碑、金井沢碑をおよそ45分間隔で運行する。専用のラッピングバスで9人乗り。乗車無料。停留所は上信電鉄吉井駅・多胡碑（多胡碑記念館）・山上碑・山名駅（山名八幡宮）・金井沢碑。復路は金井沢碑から各停留所を経て吉井駅。
・第1便は9:00 吉井駅発。
・最終の便は14:15 吉井駅発。



山上碑



多胡碑



金井沢碑

尚、扉は開けるが、碑の保存のため、覆い屋の中への立入りは禁止となる。

貴重な石碑を風化から守るため、普段は覆い屋の扉が閉められており、ガラス越しにしか観覧できないが、この一般公開日だけは特別に開扉され、石碑を直接観覧できる。今回の公開は例年通り一日の公開となるが、巡回バス（無料）の運行数は増える予定。

高崎市は、多胡碑に建郡の日として刻まれた「3月9日」を記念して、この日に近い週末に上野三碑の一般公開を実施している。

高崎市は、多胡碑に建郡の日として刻まれた「3月9日」を記念して、この日に近い週末に上野三碑の一般公開を実施している。

国連教育科学文化機関（ユネスコ）「世界の記憶」登録から一年が経過し、今もなお「上野三碑（山上碑・多胡碑・金井沢碑）」は、1300年前の東アジアの文化交流を示す日本最古の石碑群として、その存在価値を示し続けられている。

多胡碑は711年（和銅4年）3月9日に多胡郡がこの地域に建郡されたことを記念して建てられた。

上野三碑公開

3月10日（日）

●観覧：山上碑・多胡碑・金井沢碑
9:00～15:00

●お問い合わせ：（一社）高崎観光協会 TEL.027-330-5333

EVENT

みさと梅まつり

3月上旬～下旬

- 会場：カニ沢会場・善地会場
- 駐車場料金：普通車 300円
マイクロ・大型バス 1,000円
バイク 100円

榛名の梅祭り

3月17日（日）

- 主会場：榛名文化会館
エコー前広場
9:30～

TAKASAKI CITY 第28回 はるな梅マラソン

3月10日（日）

- 会場：榛名文化会館エコー前広場
受付時間7:30～9:00（雨天決行）
- ※参加募集は終了しました。
- ※大会当日会場周辺は交通規制があります。ご注意ください。

花暦のスタートを飾る 北関東随一の梅どころ



東日本最大の梅の生産量を誇る高崎。その拠点となる榛名梅林と箕郷梅林では、梅の花の開花にあわせて梅祭りやマラソン大会が催される。

400ヘクタールの広大な土地に、約12万本の梅が植えられている榛名地域の「榛名梅林」。

『はるな梅マラソン』では、烏川沿いを走るハーフコースや、11キロ、5キロ、3キロ、2キロなど、山間部ならではのアップダウンや梅の花畑を駆け抜ける走りごたえのあるコースがあり、会場では温かいなめこ汁や甘酒のうれしいサービスがある。

また、『榛名の梅祭り』では、梅製品の賞品が当たるビンゴゲーム大会、梅干しの種飛ばし大会、梅うどんの無料配布、ステージショーなど楽しいイベントが目白押しだ。

一方、箕郷町の「箕郷梅林」は関東平野を一望する丘陵に約10万本の梅の木が植えられており、白い梅花が雲のじゅうたんのようように丘陵をおおう絶景とその先に広がる市街地の眺望が美しい。梅まつの期間中には、梅の加工品販売や梅見茶会、芸能ショーなどが賑やかに催される。

- お問い合わせ：はるな梅マラソン実行委員会（榛名支所地域振興課）TEL.027-374-6715
- お問い合わせ：榛名の梅祭り実行委員会（榛名支所産業観光課）TEL.027-374-5111
- お問い合わせ：みさと梅まつり実行委員会（箕郷支所産業課）TEL.027-371-5111

第33回 高崎映画祭

3月23日(土)～4月7日(日)

- 上映会場：高崎市文化会館 / 高崎シティギャラリー
シネマテークたかさき / 高崎電気館
- 授賞式：3月24日(日) 16:00～ 会場：群馬音楽センター

地方映画祭の草分けとして33年



地方でなかなか観られない映画を観たい、観せたいという動機から始まった高崎映画祭が、地方映画祭の草分け的存在として走り出したのが1987年。近年では授賞式にはその年の映画界を代表する監督や俳優陣が壇上にずらりと並び、華やかだ。また市内では映画撮影が盛んに行われており、高崎映画祭では、そうした高崎から生まれた映画を積極的に紹介する部門も立ち上げています。監督・キャストを招待してのトークイベントや、様々なコラボレーション企画もある。新しい出会いのある春にこそ、心ときめく映画との出会いを、是非。

●お問い合わせ：高崎映画祭 TEL.027-326-2206

高崎市シティプロモーション

タカサキ
ギンザ物語
群馬県高崎シティプロモーション

1月25日(金)～30日(水)

- 銀座蔦屋書店
GINZA ATRIUM (GINZA SIX 6F)

タカサキ ギンザ物語



国際的な商業・観光拠点で銀座の新たな玄関口『GINZA SIX』6F、GINZA ATRIUMを舞台に、文化や歴史、スポーツ等、多様性ある高崎の魅力により多くの人々に向けて発信。都市ブランド力の向上や誘客につなげていく。
17歳で夭逝した天才、山田かまちの作品展。シンガポールの巨匠エリック・クー監督が高崎ロケを行った映画『家族のレシビ』の情報を一足早く公開。今年9月に開館する高崎芸術劇場、国際体育館として機能する高崎アリーナの紹介。特別ゲストを招いてのラジオ高崎の公開収録やダルマの絵付け実演なども行われる。

●お問い合わせ：高崎市産業政策課 TEL.027-321-1255

EVENT

JIMAN

伝統を受け継ぐ味



●糖蜜に甘納豆を入れた「こはく」その見た目の美しさから、「水晶甘納豆」と言われ、つつい手にとってしまう。白花豆、金時豆、小豆、青えんどう豆と、厳選した4種類の甘納豆を、洋酒の香りとともに、寒天で固めた糖蜜にとじ込めている。水晶のような輝きと、とじ込められた美味しさは、唯一無二で感動的。新年の幕開けにもふさわしい商品だ。(1箱・12個入 1,080円)

贈り物や、土産として喜ばれる高崎の名産品が並ぶアンテナショップ「高崎じまん」、高崎の美味しいもの、身体にいいもの、珍しいものが一堂に並んでいる。
この冬のイチオシは、昭和12年創業の甘納豆専門店「一文字屋」の商品。今回は、人気の商品、二つをご紹介します。



●人気の甘納豆「栗納糖」大粒で極軟の栗を、一粒ずつ丹念に仕上げた栗納糖。伝統を受け継ぐ製法で、じっくりと糖蜜に漬け込まれた栗は、口いっぱい風味が広がり、上質の口どけを味わえる。他の甘納豆と比べると、少し値段が高めだが、天然の栗の美味しさを大切にしたい一粒に納めることができる。(1袋・7個入 1,080円)

高崎じまん
(高崎オーパ1F)

高崎市八島町4-1
電話：027-381-6967
営業時間：8:00～21:00
休業日：なし

TAKASAKI ARENA

高崎アリーナ 1月～3月の主なイベント



- チアリーディング全日本高等学校選手権大会 1/26(土)・27(日)〈観覧有料〉
- チアリーディング全日本中学校選手権大会 1/27(日)〈観覧有料〉
- 全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ 2/9(土)～12(火)〈観覧無料〉
- 全日本新体操チャイルド選手権 2/22(金)～24(日)〈観覧有料〉
- 全国ミニバスケットボール大会 3/28(金)～30(土)〈観覧無料〉

●お問い合わせ：高崎アリーナ TEL.027-329-5447



再発見

Takasaki's
Sightseeing
Rediscovery



口ケ地を訪ねて 『紅雲町珈琲屋こよみ』編

大きな観音像が見下ろす街

●人気小説をドラマ化

丘陵から大きな観音像が見下ろす北関東の街を舞台にした吉永奈央さんの推理小説『紅雲町珈琲屋こよみ』が、2018年春にシリーズ第6巻『花ひいらぎの街角』が発刊されている。

吉永さんは学生時代から長く暮らしてきた高崎を小説のピースに埋め込んでいる。シリーズ一作目冒頭の風景描写は、高崎市民であれば、どこを描いているのか、すぐにピンとくる。面白い小説は書き出しから印象的である。読み進むと上越新幹線や群馬交響楽団にちなんだオーケストラ「三山フィルハーモニー」も出て来る。

小説をもとにしたNHKテレビドラマ

『紅雲町珈琲屋こよみ』(2015年)では、富司純子がお草さんを演じ、高崎も口ケ地となった。観音山丘陵と烏川・碓氷川の俯瞰が「紅雲町」の風景に使われ、群馬音楽センターも登場した。

「紅雲町」というのは、漢字の表記も音の響きも、とても美しい地名だ。吉永さんの心の片隅に、ずっととどまっていたらしい。

紅雲町という町は、高崎市の際の前橋市内に実在し、群馬県庁の庁舎の南側、利根川の崖上に広がる住宅地で、書名だけ見た群馬県の人の中には、前橋の物語と思っていたという話も聞く。

●高齢社会に出現した
新たな探偵像

小説に出て来る紅雲町は、東京山の手のような高台に住宅や高級マンションが立ち並ぶ閑静な住宅地だ。大きな観音像が立つ丘陵のふもとで、ここに、お草さんの店「小蔵屋」がある。お草さんが65歳の時に、実家の古い雑貨屋をリニューアルした店である。小蔵屋はコーヒー豆や和食器を売る店で、お草さんの細やかな心配りとこだわりが伝わってくる。

小蔵屋は「コーヒー豆の店なので、コーヒーは試飲として無料で飲める。無料のコーヒーをお目当

てに、入れ替わり立ち代わり老若男女がやって来る。そして客たちのたわいもない会話や、カウンターのお草さんにも聞こえてくる。女子高生がホラー映画まがいの怪奇事件を目撃した話をしていりし、近所でお年寄りを狙った強盗事件も起こっている。窓越しに小蔵屋を覗く怪しい男も現れた。張り込みをしていると、徘徊老人と間違われ、認知症の噂が立ったりするが、お草さんは高齢社会の都市問題を解決する名探偵である。

●悔恨と祈りが物語の伏線に

紅雲町には、橋と交差する三ツ辻の傍らに地蔵を祀る小さなほこらが残っている。ほこらの前に身をかがませ、赤い帽子とよだれかけを作ってお地藏様にかがせ、手を合わせるお草さんの姿がある。離婚し、幼い息子を水の事故で無くしたお草さんの過去と悲しみ、悔恨は、『紅雲町珈琲屋こよみ』を読む上での伏線となっている。

■吉永奈央さん(よしなが・なお)

1964年埼玉県生まれ。2004年「紅雲町のお草」でオール讀物推理小説新人賞受賞。2008年「紅雲町ものがたり」文春文庫「紅雲町珈琲屋こよみ」シリーズ第1巻「秋を揺らす雨」第2巻「その日まで」第3巻「名もなき花の星」第4巻「糸切り」第5巻「まむすの星」第6巻「花ひいらぎの街角」。